

議案第 1 号

都市再生整備計画事業の事後評価について（諮問）

令和 6 年 1 2 月 2 5 日



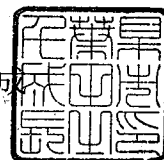
成都計第 1 2 1 3 号

令和 6 年 1 2 月 4 日

成田市都市計画審議会

会 長 田 中 亨 様

成田市長 小泉 一成



都市再生整備計画事業の事後評価について（諮問）

このことについて、別紙のとおり事後評価を実施しましたので、その結果及び今後のまちづくり方策等の妥当性についてご審議いただきたく、貴審議会に諮問します。

都市再生整備計画 事後評価シート(原案)

成田市居住誘導地区

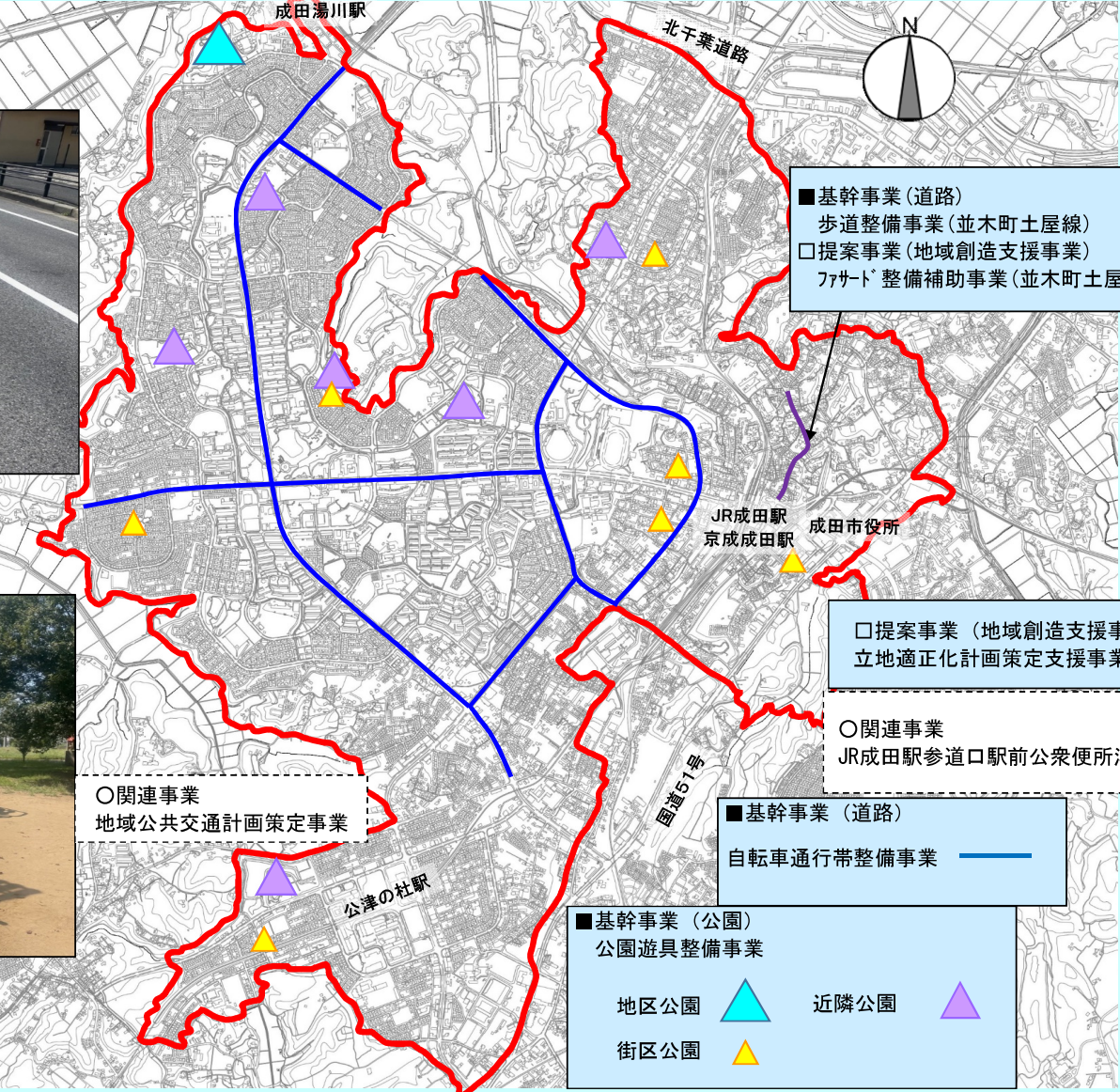
令和6年10月

千葉県成田市

様式2－1 評価結果のまとめ

都道府県名	千葉県		市町村名	成田市		地区名	成田市居住誘導地区			面積		1083.8ha		
交付期間	令和2年度～令和6年度		事後評価実施時期	令和6年度		交付対象事業費	300.9百万円		国費率	45.90%				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路事業（JR成田駅西口線、ニュータウン中央線、郷部線、団護台線、中台線、加良部飯仲線、玉造線、赤坂台方線） 公園事業（外小代地区公園、引地近隣公園、北団護台街区公園、南台街区公園、花崎町街区公園、栗山近隣公園、西向野第2街区公園、町山街区公園、東向野第2街区公園、東向野第3街区公園、加良部台近隣公園、神宮寺近隣公園、ハツ又台街区公園、松ノ下近隣公園、公津の杜近隣公園）											
		提案事業	-											
			事業名				削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
	当初計画から削除した事業	基幹事業	公園事業（栗山近隣公園、西向野第2街区公園、町山街区公園、東向野第2街区公園、東向野第3街区公園、加良部台近隣公園、ハツ又台街区公園）				本事業は、居住や子育て環境の魅力向上を図ることを目的とし計画的に進めており、点検による既存遊具の老朽化状況や利用頻度、利用者からの要望を踏まえ、本計画期間中に整備する公園を選定したところである。適切な整備に向け、点検や利用ニーズの把握を毎年実施し、整備優先度の見直しを行っており、その結果により当初令和7年度以降に整備予定とした公園を優先的に整備する必要が生じたため。			なし				
		提案事業	-				-			-				
	新たに追加した事業	基幹事業	道路事業（並木町土屋線） 公園事業（武蔵街区公園、後谷津近隣公園、山王街区公園、浅間近隣公園、船塚台街区公園、中団護台街区公園）				【道路】地権者との交渉が進んだことから、早期整備が可能になったため。 【公園】本事業は、居住や子育て環境の魅力向上を図ることを目的とし計画的に進めており、点検による既存遊具の老朽化状況や利用頻度、利用者からの要望を踏まえ、本計画期間中に整備する公園を選定したところである。適切な整備に向け、点検や利用ニーズの把握を毎年実施し、整備優先度の見直しを行っており、その結果により当初令和7年度以降に整備予定とした公園を優先的に整備する必要が生じたため。			なし				
		提案事業	ファサード整備補助事業（並木町土屋線） 立地適正化計画策定支援事業（成田市全域）				【ファサード】地権者との交渉が進んだことから、早期整備が可能になったため。 【立地適正化計画】令和2年6月に都市再生特別措置法が改正され、新たに防災指針を定めることが示されたため。			なし				
	交付期間の変更	当初	-		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	-								
		変更	-											
	2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標	1年以内の		効果発現要因
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期		
指標1		国際医療福祉大学学生の市内居住割合	%	37.4	令和元年度	41.0	令和6年度		37.8	△	あり		国際医療福祉大学の在学生数は、学部や学科の新設等により、令和元年度1847名から令和6年度2605名と758名増員しており、市内居住の学生数も690名から985名に増員している。指標とした市内居住割合としては、目標値に達しないものの、従前値を上回り、かつ市内居住数は着実に増加していることから、目標達成度は「△」とした。道路等のインフラ整備により、学生が生活拠点として選択するうえで必要な住環境の維持・改善につながったと考える。	-
指標2		市民満足度	%	36.5	令和元年度	59.0	令和6年度		37.1	×	あり		従前値は上回ったものの、目標値は大きく下回ったことから、目標達成度は「×」とした。指標に用いた「市民満足度調査」は、成田市全体を対象としており、本計画区域外の環境に関わる意見も反映されることが影響し、目標値の達成に至らなかったと考える。	-
指標3		-									あり			
指標4		-									あり			
指標5		-									あり			
											なし			
3)その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標	1年以内の		効果発現要因	フォローアップ
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期		
	その他の数値指標1	計画区域内人口	人	65,636	令和元年度			66,405			自転車通行帯整備及び公園遊具の整備などの計画的なインフラ整備が、安全・快適な住環境の維持改善につながり、計画区域内の居住人口の増加に寄与したものと考える。	-		
	その他の数値指標2	自転車通行帯整備箇所における自転車事故件数	件	17	令和元年度			5			自転車通行帯整備により、自転車の通行位置や歩行者通行優先の注意喚起など、路面標示により視覚的に明示したことが、自転車に関する事故件数の低下に寄与したものと考える。	-		
その他の数値指標3	-													
4)定性的な効果発現状況	なし													
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた				-			
							都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
							都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	住民参加プロセス	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた				-			
							都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
持続的なまちづくり体制の構築	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた				-				
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した								
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								

様式2-2 地区の概要

成田市居住誘導地区（千葉県成田市）都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：生活利便性の高い、快適で持続可能なまちづくり（～生涯を完結できるまち・NARITA～） 小目標①：道路や公園の整備により、安全で快適な住環境の形成を図る。 小目標②：市街地における都市機能の充実により、新たな居住を誘導する。 小目標③：充実した公共交通網の維持・確保に向けた取り組みを推進する。		国際医療福祉大学学生の市内居住割合	単位：％	37.4	R1	41.0	R6	37.8	R6
		市民満足度	単位：％	36.5	R1	59.0	R6	37.1	R6
		計画区域内人口	単位：人	65,636	R1			66,405	R6
		自転車通行帯整備箇所における自転車事故件数	単位：件	17	R1			5	R5
自転車通行帯整備事業  (JR成田駅西口線)  (圏護台線) 公園遊具整備事業  (公津の杜近隣公園)  (武蔵街区公園) ファード 整備補助事業及び歩道整備事業（並木町土屋線）  (施行前)  (施行後)  ■基幹事業（道路） 歩道整備事業（並木町土屋線） □提案事業（地域創造支援事業） ファード 整備補助事業（並木町土屋線） □提案事業（地域創造支援事業） 立地適正化計画策定支援事業 ○関連事業 JR成田駅参道口駅前公衆便所洋式化 ■基幹事業（道路） 自転車通行帯整備事業 ■基幹事業（公園） 公園遊具整備事業 地区公園 ▲ 近隣公園 ▲ 街区公園 ▲									
まちの課題の変化	・公園遊具及び自転車通行帯の整備を行い、安全で快適な住環境の形成に寄与した。魅力あるまちづくりを推進するため、引き続き計画的に整備を進める必要がある。 ・持続可能なまちづくりに向け、立地適正化計画の見直しや地域公共交通計画の策定を行った。今後は、両計画の実現に向け施策の進行管理を行う。 ・成田国際空港の更なる機能強化に伴う新たな居住の誘導に向け、都市機能の充実を図る。 ・高齢化の進行に加え外国人居住が増加しており、幅広い世代の利用や多文化共生を図ることを見据えたまちづくりが必要である。								
今後のまちづくりの方策（改善策を含む）	・成田国際空港、成田山新勝寺を始めとした歴史的観光資源、恵まれた自然や風景などの地域資源を生かし、賑わい創出や魅力の向上を図る。 ・駅周辺の整備、都市機能の維持・充実により、新たな人口定着を図るとともに、誰もが居心地の良いと感じられる空間の創出を図る。 ・公園・自転車通行帯の整備を引き続き行い、子育てがしやすく、誰もが安全安心に暮らせる住環境の形成を図る。								